古典文法トレーニング　長文課題　品詞分解と現代語訳

大問二七（出典：『大鏡』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

ひととせ、入道殿の（格助（主格））、大井川に（格助サ変・未尊（作→入道）尊（作→入道））逍遥せさせ給ひし（過去・体接助（偶然））に、作文の（格助（体修））船、管弦の船、和歌の船と（格助タ四・未）分かたせ（尊（作→入道））給ひて（尊（作→入道）接助）、その道に（ハ下二・用存続・体）堪へたる人々を（格助サ下二・用尊（作→入道））乗せさせ給ひし（過去・体接助（逆確））に、この大納言殿の（謙（作→入道））参り（尊（作→大納言））給へ（完了・体接助（順確））る を、入道殿、「かの大納言いづれの船にか乗ら（係助ラ四・未尊（作→大納言））る（適当・体）べき」とのたまはすれ（尊（作→入道）接助（偶然））ば、「和歌の船に乗り（ラ四・用）侍ら（丁（作→入道））む（意志・終）」とのたまひて（尊（作→大納言））、詠み（マ四・用尊（作→大納言））給へ（完了・体係助）る（終）ぞかし（助）。

をぐら山あらし（※1）の風の（格助（主格））寒ければ（ク・已接助（順確））もみぢの（カ上一・未打消・体）錦着（係助ク・体）ぬ人ぞなき

申し受け（カ下二・用尊（作→大納言））給へ（完了・体）るかひありて（ラ変・用）、あそばしたりな（尊（作→大納言））。御（完了・終終助）みづからものたまふなるは（尊（作→大納言））、「作文の船にぞ（係助尊（作→大納言））乗る（伝聞・体係助）べかりける（適当・用詠嘆・体）。さてかばかりの詩を（ラ四・用完了・未反実仮想・未接助（順仮））作りたらましかば（過去・体）、名の（格助（主格））上がらむ（ラ四・未婉曲・体）ことも（係助）まさりなまし（ラ四・用完了・未反実仮想・終）。

口惜しかりける（シク・用過去・体）わざかな（終助）。さても（係助）殿の（格助（主格））『いづれにかと（係助）思ふ（ハ四・終）（※2）』とのたまはせし（尊（大納言→入道）過去・体）になむ（係助）、我ながら心驕り（ラ四・用）せられし（サ変・未自発・用過去・体）」とのたまふなる（尊（作→大納言）伝聞・体）。一事の（格助（主格））すぐるるだにあるに（ラ下二・体副助ラ変・体）（※3）、ましてかくいづれの（副）道にも（係助カ下二・用ダ下二・用）抜け出で給ひ（尊（作→大納言））けむ（過去婉曲・体）（※4）は（係助）、古も侍ら（係助丁（作→読））（※5）ぬ（打消・体）ことなり（断定・用）。

※1：「嵐山」と「荒し」の掛詞。

※2：先の「かの大納言いづれの船にか乗らるべき」を指す。「にか」の後に「乗らるべき」を補う。

※3：「～だにあるに」は「～でさえ…であるのに」と訳す。「ある」は代動詞なので適宜形容詞や形容動詞を補う。今回は「稀なり」を補うとよい。

※4：「抜け出で給ふけむ（人）は」と補うべきなので「過去の婉曲」で解釈し、連体形とする。

※5：『大鏡』は語りの形態をとっているので、厳密にいえば敬意の方向は「語り手→聞き手」である。

◎現代語訳（『ステップアップノート30　古典文法トレーニング』参照）